

〔 横浜市民ギャラリーあざみ野 〕
平成 26 年度業務報告及び収支決算
〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

- ※ 文中の事業欄において、
●：主催事業。○：共催事業
を示します。
- ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、
□：定量的指標。■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリーあざみ野
所在地	青葉区あざみ野南一丁目 17 番地 3
構造・規模	鉄筋鉄骨コンクリート造地上 3 階・地下 1 階
敷地・延床面積	敷地面積 4,283㎡ 延床面積 7,899㎡／専有面積 1,975㎡
開館日	平成 17 年 10 月 29 日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル 1 階
代表者	理事長 澄川 喜一
代表者設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 22 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

指定管理第 2 期のテーマ「アートで元気になろう」というコンセプトで日常生活の中にアートを積極的に介在させ、心豊かに暮らすことを目指した事業を展開しました。

①市民と協働した創造活動、②市民ネットワークの広がり、③年齢、性別、人種、障がいの有無などすべての人に開かれた運営、この 3 つの基本的考え方を柱として業務に取り組んできました。例えば、秋に開催した「アートフォーラムフェスティバル」は、これらの基本コンセプトや運営の基本的考え方を象徴的に実現した横浜市民ギャラリーあざみ野集大成の事業と言えます。男女共同参画センター横浜北（以下「センター横浜北」とする）と連携し、地域の障がい福祉施設や NPO との協働による「アートワゴン」や「あざみ野マルシェ」の展開、コンサートの実施など多様な市民の交流が生まれました。

(2) 26年度の業務の方針及び達成目標の総括

①事業の総括

指定管理第2期の最終年にあたり、企画展では、過去最高の6,000人近い入場者数があった「あざみ野フォト・アニュアル」(石川直樹展+カメラ・写真コレクション展)、アーティストが「文化庁メディア芸術祭」審査委員会推薦作品に選ばれるなど話題を呼んだ「あざみ野コンテンポラリー」(ダクソフォン)、横浜在住で「実験工房」時代からの映像芸術の先駆者である山口勝弘の作品展(「横浜 wo 発掘 suru」)、夏休みに子どもたちが作家やアートサポーターと共にワークショップを体験したり作品に触れ合うことを通じて、アートをより身近に感じる機会(「あざみ野こどもぎやらりい」)を提供しました。これらのコンテンポラリーアートを紹介することで、アーティストと市民の直接の交流や、アーティストの感性や考え方を知り、現在進行形のアート体験ができる施設としての機能を発揮しました。

アトリエでは、小学生以下の子どもを対象とした「子どものためのプログラム」と大人を対象とした「市民のためのプログラム」を通年で実施しました。低年齢層を対象とした「親子のフリースペース」は、9,000人以上の来場者を迎え、沢山の子どもたちをアートの入り口へと誘いました。焼き物、絵画、紙やダンボール、スポンジなど日用品を用いたワークショップ等にも多くの子供たちが参加しました。「市民のためのプログラム」では、水彩画、日本画、版画、陶芸、デッサンなど質の高いワークショップを実施し、市民の日常生活に楽しみや彩を添えるお手伝いをしました。また、アート以外の分野でもその道のエキスパートを講師にお招きし、お互いに学びあう場「あざみ野カレッジ」を開催し、知的好奇心を刺激するとともに新たな交流の場を提供しました。

その他センター横浜北との協働で毎月2回のロビーコンサートや、レクチャールームを活用したコンサート等を開催し、複合施設の特徴を活かし、まちの賑わいを創出しました。また、開放的なロビーを活かしカメラ・写真コレクションをテーマ別に紹介する「ギャラリーインザロビー」や若手アーティストや障がいのあるアーティストの作品を紹介する展示も実施しました。

② 運営の総括

利用者の居心地のよい施設運営のためにセンター横浜北と日常的に協働しながら利用者の提案や苦情などに対応し、サービス向上、バリアフリーの推進等に継続的に取り組みました。特に今年度はセンター横浜北と協働して市民交流コーナーに配架している図書レイアウトを変更するなど、施設と図書資料の有効活用を実現しました。展示や制作ノウハウなどの専門スタッフを配置している当館の特徴として利用者の目線に立って希望を受け止め、芸術文化活動の成果が最大限発揮できるよう、必要とする市民に企画から展示、撤収まで、多様な専門的なサポートを行いました。また、横浜市所蔵カメラ・写真コレクションについて、未整理品の計画的な調査・整理・データベース化の実施、収蔵品の保存・管理・活用を適切に行いました。

③ 管理の総括

センター横浜北および管理委託会社とともに、設備や備品の適切な保守管理を行い、利用者に影響を与えるようなトラブル、事故ゼロを実現し、展示パネルなどのメンテナンス、修繕もスムーズに行いました。環境への取り組みは継続して推進し、光熱水消費量を削減するとともに、地域の子ども達や高齢者が安心して利用できるように職員全員による安全管理の推進など、安心して明るく使いやすい施設管理に取り組みました。

④ その他の総括

ホームページ更新、ブログやフェイスブックの頻度を高め、内容充実を図るなど活発に情報発信し、利用者の利便性も向上させました。また、次期指定管理期間に向けて、再度これまでの来館者意見、アンケートなどを精査し、現状の確認に努めることなどにより、常に来館者の視点に立ち、

センター横浜北との連携を図りながら、施設運営・事業展開の両面において成果を上げました。

4 事業についての達成状況

(1) 文化芸術に直接出会える場について

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多彩な企画展を実施してアートに出会う場を提供し、芸術文化を身近に鑑賞・体験できる拠点としての機能を発揮します。 ・それぞれの企画展でトークイベントやワークショップなどの関連事業を実施し、作品への理解を深めます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4回の企画展はそれぞれに対象とする表現内容、ターゲットの異なるものであり、企画展により多様な市民層に訴求し、周辺地域から北部地域、さらに広域からの集客などそれぞれの計画に沿って実施し、想定する成果を上げることができました。売り出しと同時に即完売したダクソフンの公演（関連事業）や山口勝弘展、石川直樹展など東京を中心に広域から集客し、横浜市北部郊外から横浜市民ギャラリーあざみ野を全国に発信することができました。 ・それぞれの企画展ごとに、多彩な関連イベント、アーティスト主導のものから市民協働による事業などを開催することがあざみ野方式として定着しており、作品への理解や関心を多様な糸口から深めることができました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「あざみ野コンテンポラリー vol.5」(5～6月) ●「あざみ野こどもぎやらりい2014」(8月) ●「横浜wo発掘 suru 展 vol.5」(10～11月) ●「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション+写真展」(2月) 	<p>[達成指標]</p> <p>□4回の展覧会で、関連事業を含め入場者数12,000人以上。</p> <p>■アンケートを実施し、企画展4回の平均満足度4.7以上。</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会4回を計画通り実施。 「あざみ野コンテンポラリーvol.5 ハンス・ライヒェル×内橋和久 リスントゥ ザ ダクソフォン」入場者:2,454人、アンケート満足度4.8。 「あざみ野こどもぎやらりい2014」入場者4,220人、アンケート満足度4.8。 「横浜wo発掘suru vol.5 山口勝弘展—水の変容」入場者2,648人、アンケート満足度4.5。 「あざみ野フォト・アニュアル 石川直樹 NEW MAP—世界を見に行く/横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展 旅をするまなざし」入場者5,944人、アンケート満足度4.7。 <p>□企画展4回の入場者数合計15,266人。それぞれ展示内容、関連事業ともに好評をいただき、高い評価を得ました。</p> <p>■顧客満足度は平均 4.7。</p>

(2) 市民やアーティストの創造活動の支援の場について

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者にも専門性の高い講座を希望する方々にも応える幅広い美術創作プログラムを開催し、創作の楽しさを体験できる場を増やします。 ・市民とアーティストや作品との距離を縮め、コンテンポラリーアートを身近なものにするとともに若手アーティストを支援し、コンテンポラリーアートの振興に貢献します。 ・様々な人たちが集まり、アートを楽しく学びながら新たな活動が生まれる場となります。
--

[成果についての振り返り]

- ・入門編から、ある程度の熟達者に応える講座等を開設し、創作の楽しさを体験する施設としての認知は定着してきたといえます。修了者が自主的な活動や団体に参加していくルートもできてきています。
- ・若手アーティストが市民と直接触れ合う場として、アーティストにとっても貴重な場となっているという評価をも得てきており、新進作家の作品発表ということのみならず、一般の鑑賞者、対象者がその存在を認識する場として重要な機会となっています。市民にとっては作品を通じてだけではなく、アーティストと直接対話できる場として、特に子ども達には目がキラキラする新鮮な場となっています。
- ・このような市民とアーティストの直接の関わりができる場が、長期的に地域のアートを支える核となる人材を育成することにつながると感じています。

[取組内容]

●市民のためのワークショップ

美術創作の基礎の習得を目的とした講座や、アーティストによるレクチャーと制作を行う講座等。

●ショーケースギャラリー

ホワイエに設置した展示ケースで、アーティストの小品展を実施。

●アーティスト「今年の顔」

企画展で紹介する新進アーティストの活動・作品発表をサポートサポーターと共に支援。

●「あざみ野カレッジ」

アートの領域を広げ、生活の中にあるさまざまなテーマをとりあげる学びの場。

●アーティストサポート

[達成指標]

□市民のための講座・ワークショップ

年間 50 回実施。
参加者延べ 850 人以上。
平均満足度 4.6 以上。

□ショーケースギャラリー
新進アーティストによる
展示を年間 6 回実施。

□アーティスト「今年の顔」
若手アーティスト 1 名を
「今年の顔」として年間を
通して支援し、ホームページでも紹介。

□あざみ野カレッジ
平成 22～26 年度の 5 年間で
学生数 1,000 名を目指
します。
(26 年度 200 名)

□アーティストサポート
平成 22～26 年度の 5 年間で
150 人のアーティストを
紹介します。

[実施内容と達成状況]

・各事業を計画通り実施。市民のためのワークショップは、「陶芸」「水彩」「デッサン」「日本画」「木版画」など、毎回充実した内容で参加者の好評を得ました。
□市民のための講座等を年間 47 回（11 コースとコレクション関連 1 回）実施。

□参加者延べ 846 人、平均満足度 4.9。リピーターを増やすとともに、初心者にも専門性の高い講座を希望する方々にも応える、多彩なプログラムを提供しました。

□ショーケースギャラリーを 5 回実施。それぞれの作家の制作過程をサポートし、「COCHAE 展 折画美で折顔」では関連ワークショップも実施しました。

□金属廃材など身近な素材を用いてユニークな作品を制作する富田菜摘を、企画展（こどもぎやらりい）の出品やアウトリーチ事業の講師として紹介。

□あざみ野カレッジは10回実施、参加者341人。（平成22年度から5年間で1,235人）。

□ホームページ（アーカイブ）で213人のアーティストを紹介。

(3) 次代を担う子どもの創造性教育の場について

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を担う子どもの創造性を育成します。 ・多彩なワークショッププログラムで創作活動の場を提供し、心と体をつかっつてのびやかに活動することを通して、子どもの心身の健やかな成長を育みます。 ・学校教育と連携し、鑑賞事業や教師を対象にした鑑賞・実技のワークショップを実施して創造性教育の場の充実につなげます。 ・子どもたちにコンテンポラリーアートに親しむ機会と、学校の授業とは違ったアートの体験を提供し、アートに親しむ市民を育成します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館では開館時以来、子どもの対象年齢や学齢を細分化したプログラムを開発、提供してきました。これは子どもの発達に適切に対応したアートからのアクションを行うことが有効であると、長年の経験に裏付けされたものです。今日でも他館が参考にする事例です。 ・市が実施している「横浜市芸術文化教育プログラム」へ積極的に参加するとともに、独自に個別支援学級や特別支援学級、その他、北部地域の小中学校の芸術系の先生方と連携した学校連携事業は地域からの信頼を得てきており、さらなる期待もされています。 ・コンテンポラリーアートと子どもの出会いは、近年多様な施設でも行われ、その効果がメディアでも取り上げられてきていますが、その先駆的な施設としてさらに新たな取り組みを開発していきたいと考えます。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どものためのプログラム ・親子のフリーゾーン 親子が粘土、紙、えのぐで遊べる創造活動の場。 ・親子で造形ピクニック 個別支援学級や特別支援学校に通う親子を対象にした造形活動の場。 ・ワークショップ プログラムごとに対象年齢を設定し、体験することを大切にした幼児・児童向けの多彩なワークショップ。 ●学校教育との連携 ・教師のためのワークショップ ・ティーチャーズあざみ野プロジェクト 中学・高校の美術の先生 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □子どものためのプログラム 年間 80 回以上実施。(ジュニアコーラス含む) 参加者数 延べ 8,200 人以上。 □アニメーション制作など、ワークショップ実践手法を学べる教師向けの講座を 1 回実施。 □ティーチャーズあざみ野プロジェクトへの参加者数 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業を計画通り実施。 ・教育プログラムでは、新たに個別支援学級へのアウトリーチも実施しました。 □子ども向け講座を81回実施。 □子供のためのプログラム参加者：10,699人。 □中学校(美術研究会) 教諭の研修会を実施。参加者30名。

<p>との連携、研修への協力。</p> <p>●アウトリーチ</p> <p>「横浜市芸術文化教育プログラム」に協力し、アーティストと一緒に小中学校へ出向いて創作を行います。</p>	<p>20人以上。</p> <p>□アウトリーチ事業 5回以上。</p>	<p>□アウトリーチ事業は、展覧会関連事業で4回、教育プログラムでアーティストと共に13回実施。学校の授業とは違ったアートの体験を子どもたちに提供しました。</p>
--	--------------------------------------	--

(4) 創造活動と社会、市民活動を結びつける場について

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の創作活動の発表の場を提供するとともに運営をサポートし、市民が主体となった芸術文化創造活動の場を広げます。 施設全体を総合的な芸術活動による地域の市民交流の場とします。 地域の市民活動等と結びついて出張事業を行い、「アートで元気になる」活動を地域から生み出します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> 北部公募展実行委員会の一員に参画し、公募から審査、表彰式まで行政及び多くの市民と協働し、横浜市北部の市民生活の中に芸術文化が身近な存在となることを意識して取り組んできました。 個々の事業のなかでも、「あざみ野ナイト」のように展示室を飛び出し、エントランスロビーを総合的な芸術活動の場として活用したことで、地域市民の楽しい交流の場を創出することができました。 地域のお祭りなどにも積極的に参加し、地域に市民ギャラリーあざみ野を認知していただきました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>○横浜北部美術公募展</p> <p>実行委員会と共催し、運営をサポート。</p> <p>○青葉区民芸術祭(前・後期)</p> <p>ふるさと協議会、運営委員会と共催し、運営をサポート。絵画・書道・写真・茶道・文芸などの発表。</p> <p>●街なかアートプロジェクト</p> <p>アート屋台を活用し、出張ワークショップを実施。</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□横浜北部美術公募展</p> <p>応募総数 300 点以上。 入場者数 4,500 人以上。</p> <p>□青葉区民芸術祭(前・後期)</p> <p>入場者数 5,000 人以上。</p> <p>□街なかアートプロジェクト</p> <p>平成 22～26 年度の 5 年間で 15 事業実施(26 年度 3 事業)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 北部公募展、青葉区民芸術祭ともに青葉区を中心とする運営団体との協力を強め、充実した内容の展示となりました。 □北部公募展の応募総数は 299 点、入場者数 4,591 人。 □青葉区民芸術祭の入場者は前後期あわせて 4,790 人。お茶席など、来館者との交流が活発に行われました。 □街なかアートプロジェクトは、センター横浜北と協働し、地域活動の場でワークショップを実施。 <p>平成26年度 3事業実施(平成22～26年度の5年間で15事業実施)。</p>

(5) 創造活動を介した人々の関わり合いの場について

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校や作業所での創造活動を支援し、障がいのあるなしにかかわらず認め合える豊かな関係を築きます。 ・市民とアーティストが知り合う場や、アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表する場を提供し、アートを介してネットワークが広がる場としての役割を担います。 ・様々な市民協働事業の相乗効果で来館者を増やします。 ・すべての人に開かれ、親しみやすく賑わいのある場をつくります。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルインクルージョンは、私たちの重要なテーマの一つです。障がいのある方々の優れたアート作品の紹介や特別支援学校との連携による取り組みも、高い評価と信頼をいただいています。 ・このような芸術文化による社会的包摂を目指す地域の活動団体とのつながりは、「アートワゴン」などの取り組みで関係性を深め、ネットワークの形成が進んできました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フェローアートギャラリー 障がいのある人たちの作品展示を行うミニギャラリー。 ●アートカフェ 市民とアーティストの交流の場。 ●アートワゴン アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表・販売する場。 ●アートガーデン ●あざみ野ナイト 建物の壁面や窓ガラスを使って映像作品を映し出すイベント。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □フェローアートギャラリー 3組以上の展示発表。 □アートカフェ年3回実施。 □アートワゴン年9回実施。 ■アートガーデン 市民の憩いの場となるよう、設置物と花のメンテナンスを実施。 □あざみ野ナイト 年1回実施、開催日の来場者数2,200人以上。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □フェローアートギャラリーにおいて4回の展示を実施。独特の感性で個性豊かな表現活動を展開している、障がいのあるアーティストたちの作品を展示しました。 □アートカフェを3回実施。アーティストや市民間の交流を推進しました。 □アートワゴン（「あざみ野マルシェ」を含む）を9回実施。アーティストや障がいのある人と市民との交流の場が生まれました。 ■アートガーデンの設置物をメンテナンス（塗り直し）し、季節の草花を植えました。 □あざみ野ナイト（1回実施）開催日（8/10）の来館者（入館者）1,758人。 ※台風のため一部内容を変更して実施。関連ワークショップも実施しました。

5 施設の運営についての達成状況

(1) 人員配置について

[取組内容]	[達成指標]			[実施内容と達成状況]		
	項目	人数	備考	項目	人数	備考
	館長	1人	課長級	館長	1人	課長級
	副館長	1人	係長級	副館長	1人	係長級
職員	8人	臨時職員含む	職員	8人	臨時職員含む	

(2) 勤務体制について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
	基本： 早番（8：45～17：30）2名 遅番（12：30～21：15）2名 （全職員によるローテーション制）	基本： 早番（8：45～17：30）2名 遅番（12：30～21：15）2名 （全職員によるローテーション制）

(3) 市民の利用を促進することについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●アトリエの平日夜間料金を半額とし、新規利用者開拓と利用促進を図ります。 ●利用者の意図が最大限発揮できるよう、具体的にアドバイスをします。 ●利用団体の展覧会情報をホームページや情報誌で照会し、広報協力をします。 	<input type="checkbox"/> アトリエ利用目標利用率（平成22～26年度の5年間で利用可能コマ数に対し70%） コマ単位 70% 日にち単位 95% 夜間コマ利用率 30%。 <input type="checkbox"/> アンケートによる展示室利用者の満足度 4.6以上。	<input type="checkbox"/> アトリエ利用率：59%（コマ単位）。 日にち単位：90%。 <input type="checkbox"/> アトリエ夜間利用率：33%。 ・アトリエの定期利用者が増え、日にち単位では高い利用率を維持しています。あざみ野カレッジなどの市民協働事業でもアトリエを有効利用しました。夜間料金の割引を引き続き実施し、利用促進を図ります。 ■ アンケートによる利用者満足度 4.7。 ・ホームページで利用状況や設備を細かく紹介し、展示方法についても適宜アドバイスしました。利用者の満足度は高く、回答した方の内ほぼ全員が「また利用したい」と回答しています。

(4) 施設運営における市民参画を促進することについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●アートサポーターの方々に、展覧会やワークショップの運営、広報事業にご協力いただきます。 	<input type="checkbox"/> アートサポーター登録者数 平成22～26年度の5年間で150名(24年度末で約160名)を目標とします。	<input type="checkbox"/> アートサポーター登録者数171名。

	<p>■アートサポーターに、企画展の事前調査やアーティストの制作補助への協力のほか、企画展レポートの執筆など、広報事業でも活動していただきます。</p>	<p>■アートサポーターの方々に、企画展開連イベントのレポートの執筆や、視覚に障がいのある方の企画展鑑賞会でのサポートをしていただきました。企画展の運営協力や、有志の方々によるワークショップ講師など、多方面で活動していただきました。</p>
--	--	--

(5) 積極的な広報を展開することについて

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報誌「アートあざみ野」 年4回発行。 ●ホームページの内容充実と最新情報の発信 ●「あざみ野メンバーズ」(メルマガ登録者) 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ホームページアクセス件数年間 50 万件以上。 □ホームページ更新 週 1 回以上 □あざみ野メンバーズへのメールマガジン 月 1 回の定期配信。 ■広報する内容によって有効な媒体を選択し、コストパフォーマンスを高めます。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ホームページアクセス数: 815,527 件 (月平均 67,960 件) □ホームページ更新 週1回以上実施。 □メールマガジンを毎月 1 回定期発信するほか、イベントに合わせて随時発行。 ■特に企画展において、ウェブ広告やSNSでの情報提供により、来場者誘致が進みました。
---	---	---

(6) 市民ニーズ、市民満足度等の把握と対応について

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●顧客満足度調査(事業参加者と貸館利用者) (再掲) ●管理合同ミーティング、職員ミーティング ●障がいのある人を対象にしたギャラリーツアーの実施や、サインの工夫をします。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用者のクレームや意見を館内職員で情報共有し、迅速な運営改善につなげます。 □視覚に障がいのある人を対象にした企画展鑑賞会を 3 回実施。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■施設利用者の顧客満足度は高く、目立ったクレームはほとんどありませんでした。アンケートや窓口でのご意見には迅速で適切な対応をしました。 施設内の催事情報や周辺の案内図を見直し、わかりやすい表示にしました。 備品の置き場所や精算方法など、利用者の利便性を高める工夫をしました。 施設利用(申請・抽選)については、移転後の市民ギャラリーとも合わせ、公平性の高い方法への変更を検討しました。 □企画展開催中に「視覚に障がいがある人とない人が共に楽しむ鑑賞会」を毎回(3回)実施。
--	---	---

(7) カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、展示について

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●適切な収蔵庫管理(温湿度管理、空気測定、喰害虫調査) ●資料の映像記録、データベース整備 ●作品の状態確認、修復 ●公開 あざみ野フォト・アニュアル (展示室での企画展) ロビー展示 (テーマを設定した小展示) ●貸出、熟覧への柔軟な対応 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■収蔵庫内環境は、年間通して温度 20℃±2℃、湿度 50%±2%。 ■pH 値を定期的に測定し、測定結果に応じたケミカルフィルターを設置。 ■文化財喰害虫生息調査を定期的に実施。 ■講座実施、資料活用については東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関の協力を得ながら進めます。 ■ワークショップや講座を実施し、写真制作に関わる理解を推進します。 □ロビー展示 年4回実施。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■常に点検業者・設備業者との連絡をとり、収蔵庫内の環境は良好。 管理委託会社と月1回の収蔵庫点検を実施し、良好な環境を保ちました。 ■担当職員が他機関や専門家との交流を通して知識を高め、資料管理や調査研究に役立てました。また、カメラ・写真専門誌ほかで執筆・発表しました。 ■フォト・ヨコハマ 2014 に合わせて写真展(企画展とコレクション公開)を実施。 ■外部講師による写真制作のワークショップを開催。 □ロビー展示を4回実施。
--	--	--

利用状況等について

施設名	26年度	
	稼働率	利用者人数
展示室1・2	100% (100%)	81,635人
アトリエ	90% (59%)	20,354人
その他		
合計		101,989人

※稼働率：日にち単位(時間帯単位)

6 施設の維持管理について

(1) 市民ギャラリーあざみ野専有部分における建物・設備・備品の適切な保守管理及び予防保全

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●設備業者とともに建物・設備の保守管理を確実にし、法定点検を遺漏なく実施します。 ●空気調和や清掃を適切に行い、快適な環境維持に努めます。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■年間無事故を目指します。 ■クレームの無い、快適な環境維持を目指します。 ■修繕必要箇所迅速に対応します。 □展示室壁面を年1回メンテナンス(塗り直し)します。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■年間無事故でした。 年間計画どおりの点検・メンテナンス業務を実施し、不具合箇所の早期発見に努めるとともに、維持管理を適切に行いました。建物の長寿命化のため、管理委託会社との情報共有や適切な保守業務を行いました。 ■快適な環境維持を実現し、クレームはありませんでした。
--	--	---

●展示室の壁面の補修や備品のメンテナンスなど、良好な状態を保ちます。	す。	■経年劣化箇所の修繕を実施（共有部分 12 か所、専有部分 6 か所）。 □展示室壁面塗り直しを実施し、展示室環境を良好にしました。
------------------------------------	----	---

(2) 環境問題への配慮について

[取組内容] ●施設利用上出た廃棄物を適切に処理します。 ●光熱水費の削減に努めます。	[達成指標] ■ゴミの分別を徹底し、排出量を抑えます。 ■利用者にはゴミの持ち帰りの原則を徹底し、必要な場合はゴミ袋を有料で販売します。 □電気とガスの使用量を前年度並みに抑制します。	[実施内容と達成状況] ■管理委託会社と協力し、ゴミ分別を適切に行いました。ゴミの削減のため、分別のほかペーパーレスや再利用に努めました。 ■利用者の理解も進み、ゴミの持ち帰りが徹底されています。 □こまめな消灯や電源オフ、空調管理を実施し、光熱水量の節減に努めました。光熱水使用量は、電気が前年度比▲2.8%、ガスが▲2.7%。
---	---	--

7 その他実施計画

(1) 危機管理対策の充実について

[取組内容] ●危機の未然防止に努めるとともに緊急対応体制を整備し、事故発生時には市へ迅速に報告します。	[達成指標] ■緊急対応体制、危機管理マニュアルを随時更新し、危機の際には全員が一致して取り組みます。 □合同防災訓練を年間 2 回実施します。	[実施内容と達成状況] ■常に防災意識を持ち、センター横浜北や管理委託会社とともに随時マニュアル見直しや施設の点検と修繕を怠らず、大きな事故なく施設運営を行いました。 □防災訓練を2回実施（うち1回は「親子のフリーズゾーン」実施中の想定）。地震とそれにとまらぬ火事を想定した避難訓練を実施し、訓練等を通して日常的な危機管理意識向上に努めました。
---	--	--

(2) 保険及び損害賠償の適切な取り扱い、個人情報の保護への適切な措置、情報公開への積極的取り組みについて

[取組内容] ●保険及び損害賠償について適切に取り扱います。 ●適正な個人情報保護、情報公開を行います。 ●ホームページを活用し、必要な情報を開示します。	[達成指標] ■賠償責任保険、レジャーサービス保険、動産保険に加入。 ■集めた個人情報は規程に基づき適切に取扱います。 ■施設利用者向けの必要な情報は、施設ホームページにおいて速やかに公開します。	[実施内容と達成状況] ■企画展の出品作品、アートサポーターやワークショップ参加者の館外での活動の際には保険加入しました。 ■注意喚起の貼り紙掲出、事務処理ミス防止対策の徹底など、常に注意し、個人情報を適切に取り扱いました。 ■ホームページで施設の空き状況や講座の応募状況など必要な情報を速やかに発信・更新し、利用者に常に最新の情報を提供しました。
--	---	---

(3) 男女共同参画センター横浜北との連携について

<p>[取組内容]</p> <p>○事業面での協働 企画段階から協働し、複合施設の相乗効果を発揮するとともに、双方の特色を活かした事業を行います。協力して施設の賑わいを創出します。</p> <p>○運営面での協働 日常業務や定例の打ち合わせにおいて情報や意見を交換し、「アートフォーラムあざみ野」の施設職員としての意識を高め、広報や環境整備など、効果的な運営に取り組めます。</p> <p>○維持管理面での協働 委託会社にもそれぞれの財団のミッションや役割、事業内容、利用者の特性などについて伝えます。委託会社を交えた定例の打ち合わせを確実に実施し、協働して施設全体の適正な維持管理に取り組めます。</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ロビーコンサートを月2回実施。</p> <p>□アートフォーラムフェスティバルを年1回実施し、来館者数2,700人以上。</p> <p>■女性と芸術文化をテーマにした「あざみ野サロン」、インターンシップ受け入れ、子ども向けプログラム「クリスマスジュニアコース」(11月～12月)を共同の企画で実施。</p> <p>□管理合同ミーティングを週1回実施(ギャラリー、センター、委託会社)。</p> <p>□職員合同ミーティングを月1回実施。</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>・事業面、運営面、維持管理面のいずれも、情報交換と協働を図り、効果的な事業活動と管理運営を行いました。</p> <p>□ロビーコンサートは、クラシックだけでなく、邦楽や合唱などを気軽にお聴きいただき、多彩なプログラムで毎回好評を得ました。24回実施。</p> <p>□「アートフォーラムフェスティバル」では、協働で企画した多彩なイベントを実施し、広報や当日の運営においても協力することで、様々な年齢層の来場者を迎え、全館が賑わいました。来館者数は昨年を大幅に上回る3,680人。</p> <p>■あざみ野サロンを4回、職場体験・インターンシップの受け入れ3回、DV防止週間に合わせたワークショップ(パープルアートカフェ)を実施。</p> <p>□合同ミーティングを実施(ギャラリー、センター横浜北、管理委託会社)し、情報共有や適切な施設運営管理を行いました。</p>
---	--	---

(4) 横浜アーティストデータバンクの構築と運用について

<p>[取組内容]</p> <p>●横浜におけるコンテンツポラリーアートの展開と発展のために実施します。</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■広報・情報管理グループと共同でLOD化を進め、財団内で連携したデータベースを整備します。</p> <p>*LOD(リンクド・オープン・データ) = ウェブ上でコンピュータ処理に適したデータを公開・共有</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■広報情報管理グループとともにLOD化への整備を継続し、ホームページのアーカイブ(イベント、アーティスト情報)を充実させました。</p>
--	--	--

	<p>するための技術の総称。</p> <p>■新進アーティストを継続して支援していくことを重要なミッションとして位置づけており、制作の支援、活動の紹介および発表の場の提供など積極的に取り組んでいきます。</p>	<p>■独自の表現活動を行うアーティストを取り上げ、ショーケースギャラリー、アートワゴン、写真展において新進アーティストを積極的に紹介しました。作品制作支援や発表の場の提供など、継続的に支援しました。</p>
--	---	--

8 収支について

(1) コスト削減への努力について

<p>[取組内容]</p> <p>●適正な予算執行と業務の効率化による節減に努めます。</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■男女共同参画センター横浜北とも協力し、施設管理にかかる委託費を前年度並みに抑制します。</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■消耗品の一括購入や、修繕工事の同時期発注など効率化を進め、適正な執行と経費節減に努めましたが、広報の積極的な展開などにより、前年度比+9.8%となりました。</p>
---	---	---

(2) 収入向上及び外部資金導入の努力について

<p>[取組内容]</p> <p>●利用料金収入の安定的な確保に努めます。</p> <p>●自主事業において、助成金・協賛金を獲得します。</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□利用料金収入(負担金収入を含む)年間1,200万円以上を維持。</p> <p>□助成金を2件以上申請し、協賛金・広告料とあわせて獲得目標300万円以上。</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□利用料金を適正に収受しました。</p> <p>利用料金収入(負担金収入を含む)は約1,352万円。</p> <p>□助成金(協賛金)を前年度とあわせて3件申請。平成26年度事業で助成金・協賛金を190万円獲得。広告料収入は10万5千円(合計200万5千円)。「あざみ野コンテナラリー」では、協賛会社から、数十万円相当の機器の無料貸与を受けました。</p> <p>平成27年度事業への助成金・協賛金を2件申請しました。</p> <p>次年度以降の情報誌「アートあざみ野」への広告掲載企業確保に積極的に取り組みました。</p>
---	--	--

5 収支決算額について

収支決算書

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
収入				
指定管理料収入	169,148,000	169,148,000	0	
利用料金収入	9,000,000	8,582,090	△417,910	
事業収入	3,010,000	3,799,081	789,081	
その他収入	4,930,000	7,734,814	2,804,814	※駐車場利用料 4,940,939円を含む。
合計	186,088,000	189,263,985	3,175,985	

支出					
人件費	65,728,000	64,346,745	△1,381,255	人事異動、超勤削減による	
管理費	64,000,000	64,594,156	594,156		
内 訳	光熱水費	19,000,000	16,928,788	△2,071,212	エネルギー使用量抑制による
	委託費	42,000,000	45,236,082	3,236,082	広報強化などを含む
	修繕費	2,000,000	1,692,856	△307,144	
	受託財産購入	1,000,000	736,430	△263,570	
事務費	15,810,000	14,671,478	△1,138,522	発注のみなおし	
文化事業費	40,550,000	36,034,166	△4,515,834	印刷費、委託費などの抑制	
合計	186,088,000	179,646,545	△6,441,455		

収支計	0	9,617,440	9,617,440	
-----	---	-----------	-----------	--